

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 8 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

8 月	1 日	～	750 円/Kg
8 月	3 日	～	730 円/Kg
8 月	8 日	～	720 円/Kg
8 月	15 日	～	710 円/kg
8 月	20 日	～	690 円/kg
8 月	23 日	～	700 円/kg
8 月	28 日	～	720 円/kg

平成 30 年 8 月度は平均で 716.00 円/kg となり、前月比 24.40 円/kg の値下がりとなりました。

海外銅価の動き

8 月の LME 銅相場	8/1 ～ 8/30 (安値ドル 5,843.00～6,247.00 高値ドル)
8 月の NYC 銅相場	8/1 ～ 8/30 (安値セント 255.70～275.55 高値セント)

2018 年 8 月度の LME 現物は、8/1 \$6,137.00 でスタート。相場はチリ・エスコンディダ銅山でのストの可能性や、LME 在庫の減少などの材料には反応が鈍い。やはり米中間の貿易摩擦の悪影響を警戒していると思われる。8/15 入電では、ついに 2017 年 7 月以来の \$6,000 台割れとなった。その後、相場の下支えとなる材料としては、米中間の貿易摩擦解消の動きが出た時に反応する形が当面は続くと思われる。しかしながら、米国トランプ大統領の発言は過激であり、結局は貿易摩擦の報復合戦の終結に向かうとの期待感は薄れ、更に激しくなるとの見方も出始める状況となっている。今後もこの問題の影響が続くと思われる。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 4 月 資料より (単位/千トン)

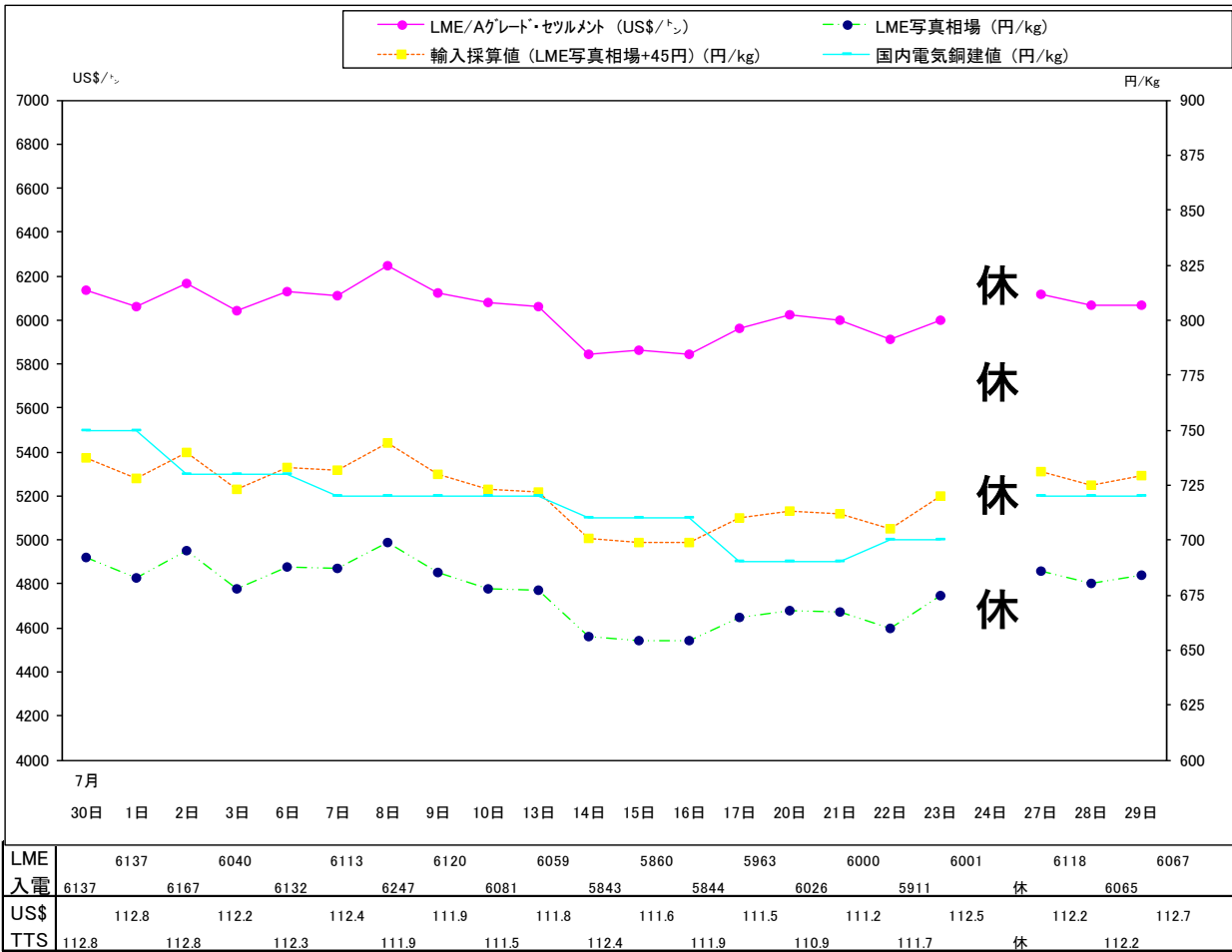
	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,008	23,306	+1.3%	23,678	+1.6%	24,124	+1.9%
全世界地金消費	23,059	23,522	+2.0%	23,997	+2.0%	23,447	+1.9%
全世界需給バランス	-51	-216		-319		-323	

先行き短期見通

国内銅価

8 月度の国内建値は 1 日 750 円/kg でスタート。3 日 730 円、8 日には 720 円、15 日 710 円、20 日にはついに 700 円を切り 690 円に続落する形となった。23 日 700 円、28 日 720 円とやや終盤に戻す動きとなったが、今後にも当面は米中貿易摩擦の影響は大きなウェイトを占めるとと思われる。8/30 付 LME \$6,066.50、30 日付 為替 (TTS) 1USD=112.79 円で日本円換算計算値 684 円/kg。2018 年 9 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、720 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年8月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 8月 1日 ~ 370 円/kg
- 8月 7日 ~ 352 円/kg
- 8月 16日 ~ 340 円/kg
- 8月 21日 ~ 328 円/kg
- 8月 27日 ~ 340 円/kg

平均328.50円/kg

平成30年8月は上記の通りで前月比 17.10円/kgの 値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	8月	290.30	円/kg	(前月比-	22.70	円/kg)
電気錫(相対)	8月	3,590.00	円/kg	(前月比-	20.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	8月中価格	1,600.00	円/kg	~ 1,650.00	円/kg	
銀	7月平均	57,790.00	円/kg	(前月比-	2,130.00	円/kg)
	8月30日	54,310.00	円/kg			
金	7月平均	4,461.71	円/g	(前月比-	102.00	円/g)
	8月30日	4,355.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成30年7月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		6月度実績	7月度速報	前月比	前年7月度実績	前年同月比
銅	板	1,312	1,610	22.7%	1,361	18.3%
	条	23,106	23,634	2.3%	23,815	-0.8%
	管	9,549	9,455	-1.0%	9,977	-5.2%
	棒	2,334	2,494	6.9%	2,501	-0.3%
	線	274	265	-3.3%	262	1.1%
黄銅	板	653	686	5.1%	653	5.1%
	条	9,452	9,377	-0.8%	9,361	0.2%
	管	575	506	-12.0%	607	-16.6%
	棒	15,975	15,600	-2.3%	17,251	-9.6%
	線	2,730	2,829	3.6%	2,641	7.1%
青銅	板	3,056	2,850	-6.7%	2,962	-3.8%
	条					
	棒	274	256	-6.6%	290	-11.7%
	線	77	59	-23.4%	85	-30.6%
洋白・その他	板	508	479	-5.7%	542	-11.6%
	条					
	棒	37	41	10.8%	53	-22.6%
	線	499	465	-6.8%	454	2.4%
合計		70,411	70,606	0.3%	72,815	-3.0%

7月の伸銅品生産速報は、70,606トンで前月比プラス195トン、前年同月比-0.3%となり、前年同月比が2ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の5月分実績及び6月分推定によれば、5月実績は7部門中で出荷ウェイトの高い建設電販、電気機械、自動車の3部門が牽引し、総計は5万4千994tで前年同月比7.4%増と大幅に増え、2ヵ月連続で伸長した。ただ、総計の数値は低く、大幅増は昨年の実績が低い為、実績ベースでは平常月並みであり、増加の実感は乏しい。

一方、6月分推定は、久しぶりに自動車が水面下に沈み、電気機械も2ヵ月ぶりに減少するものの、建設電販が同5.8%増と健闘し、総計は5万9千700tで同3.5%増と3ヵ月連続で伸長するとした。ただ、主力の建販需要が増加ながらも当初、見込んだほどの本格需要には至っていないため、手応えは薄いと見ている。

一方、5月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは電気機械、自動車部門と建設電販、輸出の4部門。電気機械は車載用や、ニッチだがFA/ロボットケーブルなどが貢献し7ヶ月ぶりに上回った。自動車は丸2年以上連続で上回り同9.7%増と好調維持。建設電販は一部の再開発案件、インバウンド関連、JR用途が動き前年度比7.7%増と大幅に伸びた。6月も同5.8%増の見通し。輸出は海外向け電力ケーブルなどが牽引し同23.3%増加した。マイナスグループは3部門。通信は光化の影響で7.4%、7ヶ月連続で下降し、電力は超高压ケーブルの張替え需要の遅れで同6.5%減。その他内需は5ヵ月連続低調で、同8.3%減少した。

2018年5月分(実績)・2018年6月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	5月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	6月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	5月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	826	▼7.7	▼7.4	800	▼3.1	▼9.1	1,371	(▼11.4)	▼1.9
電力	(2,061)	(141.0)	(▼17.3)	(1,300)	(▼36.9)	(▼21.6)	1,334	(12.1)	(▼11.3)
電気機械	4,119	91.0	▼6.5	4,300	4.4	3.9	4,807	5.5	1.6
自動車	(263)	(▼50.4)	(▼26.9)	234	(▼54.4)	(▼30.8)	234	(▼54.4)	(▼30.8)
建設・電販	11,622	▼6.4	5.9	13,000	11.9	▼1.3	16,554	▼5.4	13.7
その他内需	(80)	(▼22.3)	(0.0)	332	(▼18.8)	(5.4)	332	(▼18.8)	(5.4)
輸出	6,271	▼9.0	9.7	6,800	8.4	▼3.6	28,794	▼5.1	12.8
心線販売	(28)	(▼33.3)	(180.0)	28	(▼26.3)	(133.3)	28	(▼26.3)	(133.3)
合計	25,048	▼5.1	7.7	27,900	9.8	5.8	30,412	▼3.7	17.8
内需計	(43)	(▼8.5)	(▼75.8)	(500)	(1062.8)	(▼0.4)	43	(▼14.0)	(▼46.2)
輸出	4,042	▼5.9	▼8.3	4,800	18.8	4.8	6,596	▼6.2	4.4
輸出	(25)	-	(▼20.7)	(300)	(1100.0)	(1900.0)	23	(360.0)	(▼88.4)
輸出	2,706	69.4	123.3	2,100	▼22.4	43.0	11,289	76.7	149.8
合計	(2,500)	(▼1.1)	(▼27.7)	(2,100)	(▼16.0)	(▼3.4)	1,994	(▼9.6)	(▼18.5)
合計	54,994	▼2.9	7.4	59,700	8.6	3.5	99,824	0.9	20.5
心線販売	(1,189)	(▼11.0)	(44.6)	(1,000)	(▼15.9)	(▼13.6)	333	(▼6.7)	(60.1)
心線販売	27,837	▼7.2	4.1	30,700	10.3	▼1.0	21,380	▼5.7	19.9

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2018年5月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比
裸線	3,366	▼11.3	▼12.4	3,018	▼16.4	0.9
巻線	10,586	▼7.5	5.6	11,626	▼5.9	20.7
機器用電線	3,542	▼5.2	9.0	10,374	▼5.5	13.2
通信用電線・ケーブル	1,443	0.5	▼2.0	3,100	▼4.5	▼0.7
電力用電線・ケーブル	20,222	▼0.2	12.4	26,222	21.4	51.1
被覆線	10,589	0.4	6.7	14,815	▼0.5	14.2
輸送用電線	5,246	▼3.6	▼88.0	30,669	▼5.0	11.1
銅電線計	54,994	▼2.9	7.4	99,824	0.9	20.5
EM電線・ ケーブル	56	▼9.7	▼21.1	187	▼1.4	▼16.1
通信用電線・ケーブル	56	▼9.7	▼21.1	187	▼1.4	▼16.1
電力用電線・ケーブル、被覆線	2,256	11.0	7.9	2,710	15.1	17.9
計	2,317	10.4	7.0	2,923	11.8	14.8
アルミ電線計	2,500	▼1.1	▼27.7	1,994	▼9.6	▼18.5
光製品	4,119,858	13.1	▼1.3	21,088	5.1	▼3.2
うち、光ファイバケーブルコード	-	-	-	3,598	▼1.9	▼14.0

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場の第1週は、中国のPMI指数が前月を下回り中国景気の悪化が懸念される中スタート。米政府の中国からの輸入品に対する2000億ドル規模の追加関税について、従来予定の10%から25%に引き上げる計画が報道されたことで、米中貿易摩擦の懸念から中国株式市場が下落。非鉄にも売りが入る。第2週、第3週は、7月米雇用統計で、失業率や平均時給の伸び率が好調だったことで、ドル高が若干進行。中国政府が600億ドル規模の報復関税を発表したことによりセンチメントが悪化。さらにイラン制裁再開などもリスクセンチメントを悪化させる。米政府が対中制裁関税第2弾の発動を発表。貿易戦争懸念と、中国の刺激策期待で相場はバランスを保つ状況。日本のお盆連休前に、豪州アルミナ製錬所のスト開始の情報で中国筋とみられる大口の買いが入り、値を上げる。第4週、対中制裁関税第2弾として、新たに160億ドル規模の中国製品への追加関税発動で貿易戦争の先行き次第の相場となっている。解決が遅れるほど、实体经济への影響が懸念される。最終週、ジャクソンホール会議にてFRB議長が利上げを急がない旨を発言。米墨のNAFTA2カ国間協議の合意、貿易摩擦懸念の後退から、当面は\$2,100~\$2,200のレンジ内での展開が続くと予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年8月積 2,224.00~2,233.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年8月積 265.20~266.30 円/kg
- ・NSP 2018年6月 311.4 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年7月~9月 310.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年6月	'18年7月	'17年7月
月生産	*2,284.0	2,362.0	2,329.0
平均日産	*76.1	76.2	75.1

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

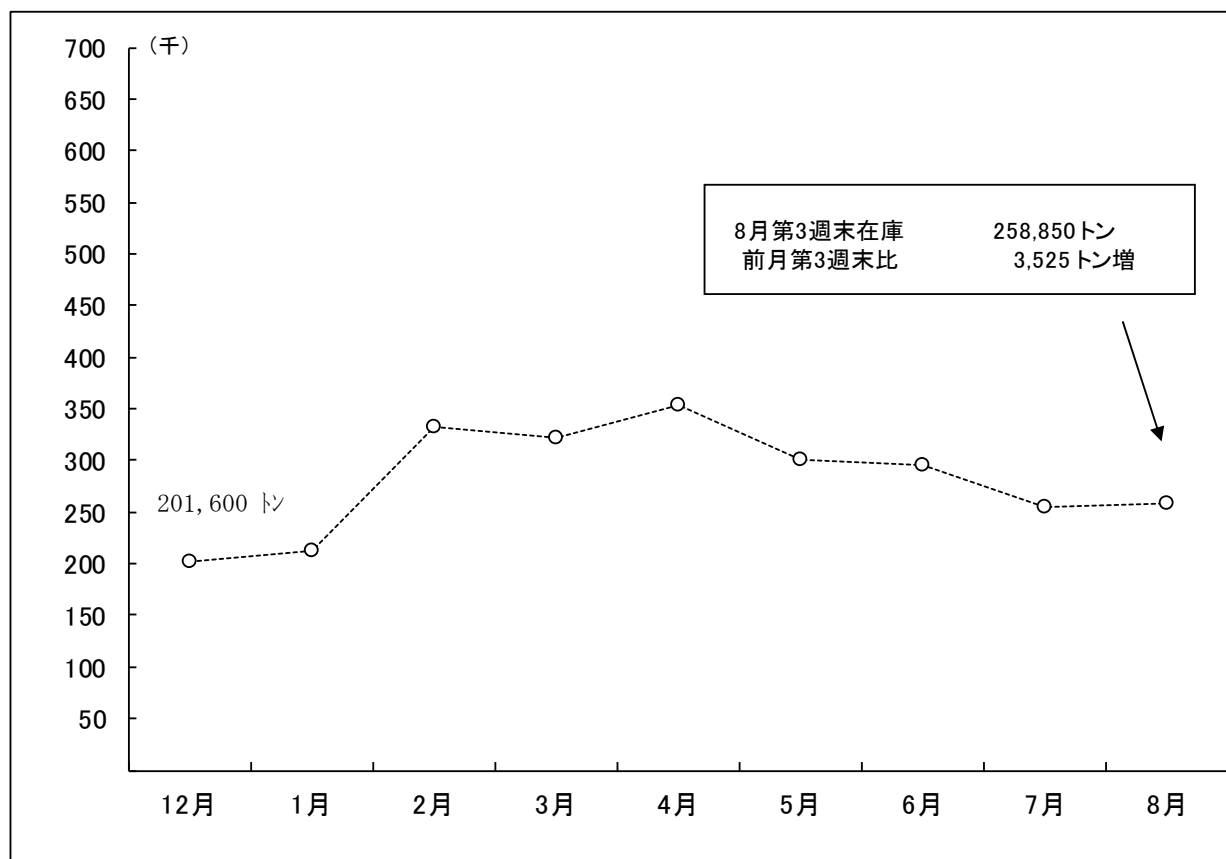
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年4月	2018年5月	増減	2017年5月	増減
横浜	122,500	144,000	+21,500	123,800	+20,200
名古屋	129,600	125,200	-4,400	127,600	-2,400
大阪	15,000	15,000	±0	14,500	+500
合計	267,100	284,200	+17,100	265,900	+18,300

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・30年8月17日現在 196,352 S T 前月比 19,632 S T減

◎ 国内山元電気銅在庫

・30年6月末 96,765 トン 前月比 11,656 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・30年6月確報 70,411 トン
 ・30年7月速報 70,606 トン 前月比 100.2 %

◎ 電線出荷実績

・30年7月速報 59,800 トン 前月比 100.2 %

◎ 軽圧品生産実績

・30年 7月	板 類	106,068 トン	
	押 出 類	68,616 トン	
		<hr/>	
		174,684 トン	前月比 98.7 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。